

# 進んで伝記を読む児童を育てる学習指導の試み

## — 単元「心にのこる、このことば」の場合 —

吉 岡 卓 也

### 1. はじめに

本実践は、平成 25 年度に上板町東光小学校の 5 年生 18 名（男子 9 名、女子 9 名）とともに取り組んだ実践である。児童の読書生活を観察していると、読書に関心はあるが、読んでいる本のジャンルに偏りがあった。先人の生き方に触れ、自分の考えを広げ深められる「伝記」を読んでいる児童はほとんどいなかった。そこで本実践は、本の中でもとりわけ先人のすばらしい生き方が記されている「伝記」に的を絞り、進めて行くことにした。

本実践では、伝記を読み進める中で、児童に心に残った「ことば」を短冊に書き留めさせた。ことばを取り上げることが、伝記に描かれた人物の生き方と自分の生き方を比較し、共通点や相違点を見つけたり、自分の生き方についての考えをまとめたりする際の手がかりになると考えたからだ。また、私自身これまで生きてきた中で、ことばには力がある、人の感情を揺さぶることができると感じる場面に何度も遭遇し、その都度それらのことばを書き留めてきたからだ。挫けそうになったとき、諦めそうになったとき、周りの方がかけてくれたことば、また本や音楽で触れたことばに何度も励まされ助けられた。児童も今後生きていく上で様々な困難にぶつかるだろう。そのとき、それまでに出会った数々のことばは、きっとその困難を乗り越える支えとなるはずだ。とりわけ先の時代を力強く生き抜いた偉人のことばは、児童にとって大きな支えとなるに違いない。

伝記のすばらしさに気づき、進んで伝記を読む児童が増えることを願い、本実践を行った。その試みを報告したい。

### 2. 指導にあたって

(1) 単元名           心にのこる、このことば

(2) 単元について

世羅博昭氏は、「学習者全員が同じ目標に到達することをめざした授業であっても、学習者一人ひとりの興味・関心や学力の違いに応じて、複数の教材を用意し、学習過程の複線化をはかるといった工夫が必要である。」と述べている<sup>(注1)</sup>。

興味・関心に応じた伝記を選べるよう、第 5 学年と第 6 学年の国語科教科書に平成 12 年

(2)

以降に採録された六人の伝記を取り上げた。人物は、緒方洪庵（H19 大阪書籍）、手塚治虫（H23 東京書籍）、ガリレオ・ガリレイ（H12 日本書籍）、マザー・テレサ（H19 大阪書籍）、宮沢賢治（H17 東京書籍）、ルーシー・モード・モンゴメリー（H19 学校図書）である。緒方洪庵やマザー・テレサの伝記からは、他者への思いやりをもつことの大切さを学べるのではないかと考えた。また、ガリレオ・ガリレイの伝記からは、自分の考えをもつことの大切さや、多様な価値観やものの見方があることに気付けるのではないかと考えた。さらに、手塚治虫や宮沢賢治、ルーシー・モード・モンゴメリーの伝記からは、自分の夢や理想を追い求めること、粘り強く物事に取り組むことのすばらしさや大切さを学べるのではないかと考えた。

レイチェル・カーソン（H14 学校図書）や田中正造（H19 教育出版）の伝記もあったが、使用されている語句の難易度が高かったり、時代背景を知らないといふ児童が読み進めにくいと感じたりしたので、今回は学習材として取り上げなかった。

各自が選んだ伝記を読む前に、モデル学習として「百年後のふるさとを守る」（光村図書5年）を全員で読み進めていくことにした。「百年後のふるさとを守る」は、大地震が起きたときに村人を命がけで守り、その後の大地震による津波から村人を守るための堤防を中心となって造った浜口儀兵衛という人物の生涯が描かれている伝記である。儀兵衛の生き方に児童は感銘を受け、自身の生き方を見つめ直すにちがいない。

### (3) 単元の目標

#### ① 学習者の活動目標

伝記を読んで心に残ったことばを短冊に書き留め、友達に紹介する。

#### ② 指導目標

○進んで伝記を読もうとする態度を育てる。

○複数の伝記を読み、そこに描かれている人物の生き方と自分の生き方を比較し、表現することができる。

○伝記を読み、心に残ったことばを紹介し合うことを通して、自分の考えを広げ深めることができる。

○伝記の特色を理解することができる。

### 3. 学習指導の実際

#### ① 事前 学級内に「伝記コーナー」をつくる

学級内に「伝記コーナー」をつくり、児童の興味・関心に合う伝記を揃えた。徳島県立図書館の団体貸出制度を利用し、72冊の本を借り、コーナーに並べた。ウォルト・ディズニー、坂本龍馬、パブロ・ピカソ、ベートーベン、本田宗一郎など、児童の認知度が高いと思われる

る人物の伝記も並べた。単元の学習を始める前から、コーナーに並べられている伝記を手に取り、読んでいる児童もいた。

## ② 第1次 学習計画を立てる (1時間)

第1次では、学習計画を立て、活動目標を知るとともに、伝記で読みたい人物を選んだ。

単元の始めに学習計画を立て、活動目標を知ること、児童は単元全体を見通し、目的的に学習に取り組むことができる。また読みたい人物を選ぶことで、自分が選んだ人物の伝記を自身の力で読むために、「百年後のふるさとを守る」を学習するのだという学習の必然性が生まれ、意欲を高めることができると考えた。

伝記で読みたい人物を選ばせる際には、六人を簡単に紹介したワークシートを使用し、読んでみたい人物に印をつけさせた。(【資料1】参照)人物紹介の1文目は、児童への問いかけの形をとった。自己と重ね合わせたり、知的関心をもったりすることが、その人物の伝記を読んでみたいという意欲につながるのではないかと考えたからである。グループ編成のことを考え、数人を選択するよう言葉かけをした。グループ編成は、人数や能力等に配慮しながら指導者が行った。

### 【資料1 「自分が読みたい伝記を決めよう」ワークシート

「心の中の、このことば」 名数一

自分が読みたい伝記を決めよう

読みたい伝記をえらび、名前に○をつけよう。

緒方洪庵

みなさんは、自分より人のことを考えて行動ができるだろうか。緒方洪庵は、医師として人を救うことだけを考え、行動した人物である。「通書」という塾をつくり、多くの人を育てた。福沢諭吉も塾で学んだ一人である。

手塚治虫

「鉄腕アトム」というマンガを知っているだろうか。七つの超能力をもつロボットだが、人間と同じような温かな心をもつ「アトム」が登場するマンガだ。この「鉄腕アトム」を生み出したのが手塚治虫である。

ガリレオ・ガリレイ

みなさんは、重い物と軽い物とではどちらが速く落ちると思うだろうか。それまでの考えを信じてみず、実験したのが、ガリレオ・ガリレイである。命がけで「地動説(地球が太陽の周りを回っている)」を支持した人物でもある。

マザー・テレサ

同じ人間でありながら、道ばたで死んでいく貧しい人々を見たら、みなさんならどう行動するだろうか。そのような人を連れて帰り、手当てをしたり、長期まではげまじ続けたらして、貧しい人たちのために力をつくした人物、それがマザー・テレサだ。

宮沢賢治

「本当の幸せは、どこにあるのだろうか。宮沢賢治は、生がいをかけて、人間も動物も自然も一つにならべて、心を通い合わせることのできる「まごころの幸せ」がどこかにありはしないかと探そうとした。

ルーシー・ロンドンゴメリー

自分の夢をどこまで追い続けることができるだろうか。女性が作家になることが考えられなかった時代、子どものころの夢を捨てることなく、詩や物語を書き続けた人物、それがルーシー・ロンドンゴメリーである。「赤毛のアン」で世に認められた。

(4)

### ③ 第2次「百年後のふるさとを守る」を読む(6時間)

第2次では、モデル学習として「百年後のふるさとを守る」を読み、心に残ったことばを短冊に書き、皆に紹介した。

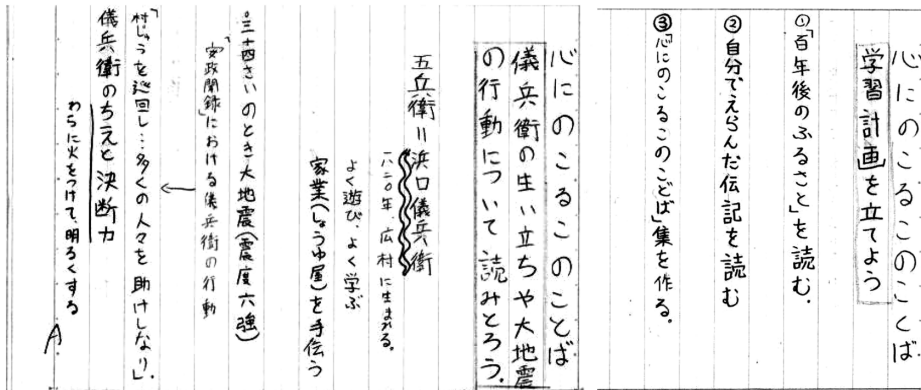
「百年後のふるさとを守る」は、四つのまとまりから成り立っている。一つ目には、「稲むらの火」の始まりの部分の引用とその説明が書かれている。二つ目には、浜口儀兵衛の生い立ちと大地震の際の行動について書かれている。三つ目には、大地震後に村人たちと大堤防を完成させるまでの儀兵衛の考えと行動について書かれている。四つ目には、筆者が儀兵衛の業績に見いだしている意味についての解説が書かれている。

初発の感想を書いた後、各まとまりごとに儀兵衛の言動や考え、筆者である河田恵昭さんの考えを読み取った。その際、儀兵衛の言動や考えには赤線を、河田さんの考えには青線を教科書に引かせ、視覚的に区別できるよう支援した。教科書に線を引くことで、伝記に描かれる人物の言動や考えに加え、それを評価する筆者の考えも書かれているという伝記の一つの特色を、音読のときなどに繰り返し確認できるようにした。

児童は、儀兵衛の村や村人に対する熱い想い、堤防建設反対の声があがる中での苦渋の決断、河田さんが儀兵衛の業績に見いだした意味などについて叙述に即して確認していった。

以下は、児童が各時間にとったノートの記録である。矢印や記号などを効果的に用いることで、各まとまりに書かれている儀兵衛の言動や思い、また河田さんの考えなどを児童が捉えやすいように工夫した。

#### 【資料2 児童のノート】



大堤防を完成させるまでの  
儀兵衛の思いや行を読みとう  
希望を失い村をすてよつこ  
する者

儀兵衛「このままでは村がたぶれる  
自分のお金を出して米衣  
服を買って仮小屋を建てた  
それでも村人の流出は止まらぬい  
どうすれば村人たるはとどまってくれるのか  
村人自らの手で堤防をつくる  
お金は全部自分で出す

「**題名**とかわる  
村人にむかって 百年後のふるさとを守る  
百年後に大津波がきても村を  
守れる大堤防をつくろう」  
β

ほとんどの村人堤防づくりに  
参加

筆者「これだけ大きな  
画期的なこととしていいだろう  
今までなかった新しくすぐれている

江戸で大地震  
代々受けつがれた店主の責  
任は重い。  
いかにせん助を打ち切れば村を  
見すてることになる」

儀兵衛の心はなかなか決まらず  
なんとしても堤防を完成させる  
約四年後広村堤防の完成  
一八八五年六十五さいで七くなる

筆者が「儀兵衛」の業績に見い  
だしている意味についてとらえよう  
儀兵衛が百年後に役立つ堤防をつ  
くたこと  
おどろくべきこと **偉大な功績**

大きな意義  
①物質的えん助に加え防災事業と  
生活えん助をした。  
②自助の意識と共助の意識をもつよう  
に努めた。  
③長期計画の必要性有効性を教  
えてくれた。

儀兵衛がしたことや考えたことから、  
多くのことを学ぶことができる。

各時間の最後には、学習を振り返って感想を書いた。その際、児童に書く視点を与えるとともに、書き出しで困らないようにするため、次のような手引を与えた。

百年後のふるさとを守る ー  
こんなことを書いてみてはどうでしょう。

儀兵衛さんの言ったことで、心に残ったことばは、……だ。なぜかという……だからだ。

儀兵衛さんの行動ですばらしいと思ったことは、……だ。なぜかという……だからだ。

河田さんの考えで心に残ったことは……だ。

河田さんは、儀兵衛さんのことを……と知っている。その意見に対して、わたしは……読んで新しく知ったことは……だ。



【資料3 印刷して配布した感想】

大津波が起きた際の儀兵衛  
 さんの行動をすくなくいって  
 ましたと思ひました。た  
 ら  
 自分の命のことだけ考えて  
 思ひました儀兵衛さんの子  
 のころの様子と私を比べてみ  
 とまたこころがまじまじと  
 私ばかり外で遊んでませぬ  
 いつも家で遊んでいろいろ  
 ちがいます。あと今日学習の  
 場面で残った言葉は、  
 なんとしてでも完成させれば  
 と思ひました。でもなぜなら  
 たしならおもしろいと思ひ  
 かんばるのがすこし思ひ

儀兵衛さんの行動はす  
 ばらしいと思ひました。  
 とくに百年後のふるさと  
 を守る大い防壁を作  
 ったこと、理由は百年  
 後のふるさとを守るため  
 には、今も今もと四  
 たからや儀兵衛さんの生  
 きかを知り、ほかにカ  
 のみんなや家々の人々  
 ちのためになにかや  
 ことをしたいと思ひま  
 した。

儀兵衛さんの行動はす  
 ばらしいと思ひました。  
 とくに百年後のふるさと  
 を守る大い防壁を作  
 ったこと、理由は百年  
 後のふるさとを守るため  
 には、今も今もと四  
 たからや儀兵衛さんの生  
 きかを知り、ほかにカ  
 のみんなや家々の人々  
 ちのためになにかや  
 ことをしたいと思ひま  
 した。

儀兵衛さんの行動はす  
 ばらしいと思ひました。  
 とくに百年後のふるさと  
 を守る大い防壁を作  
 ったこと、理由は百年  
 後のふるさとを守るため  
 には、今も今もと四  
 たからや儀兵衛さんの生  
 きかを知り、ほかにカ  
 のみんなや家々の人々  
 ちのためになにかや  
 ことをしたいと思ひま  
 した。

6時間目には、「百年後のふるさとを守る」を学習して最も心に残ったことばを、教科書を読み返したり、これまでに書いた感想を見たりして短冊に書いた。その際、短冊に書くための手引きを児童に与えた。(【資料4】参照) 短冊の裏には、儀兵衛の紹介や、短冊の表に書いたことばに込められた儀兵衛の思い、また伝記を読む前と読んだ後での自分の考えの変容などを書いた。

【資料4 短冊に書くための手引】

※ 書きには、次のようなことを書いてみてはどうでしょう。

「これまでは……のような考えであったが、備兵衛の伝記を読んだ……のように考えが変わった。(塚まろた)」

「備兵衛と比べて、私は……だ。自分も備兵衛のように……したい。」

表


「ひととしても堤防を完成させる」

(名前)

短冊の表には、心にのびたことばを書きましょう。裏には、簡単に備兵衛の紹介と、自分の考えなどを書きましょう。

※ このことばは、浜口備兵衛という人物が残したことばである。備兵衛は……をした人物である。このことばには、備兵衛の……の思いが表れている。 ※ 村人を助けつなごいも……をがらす 村人を助けた人物です。このまは自分よりほだいたいと思っていいたか、助けた人物です。これは自分よりほだいたいと思っていいたか、この伝記をよみほくも自分をほだはなくのかことを考えたことと思いはした。

【資料5 短冊の実際】



このことばは、浜口備兵衛という人物が残したことばである。備兵衛は……をした人物である。このことばには、備兵衛の……の思いが表れている。 ※ 村人を助けつなごいも……をがらす 村人を助けた人物です。このまは自分よりほだいたいと思っていいたか、助けた人物です。これは自分よりほだいたいと思っていいたか、この伝記をよみほくも自分をほだはなくのかことを考えたことと思いはした。

1～5時間目まで、どの時間も手引き等で、ことばに着目できるように仕組んできたため、書き流る児童はほとんどいなかった。「なんとしても、堤防を完成させる。」ということばを選んでいる児童が多かったが、「ここで援助を打ち切れれば、村を見ずることになる。」「五十年後、いや、百年後に大津波が来ても、村を守れる大堤防をつくろう。」「自分たちの手で、子孫たちまで安心してらせる村をつくるんだ。」といったことばを選んでいる児童もいた。

書き終えたら、皆の前で紹介した。友達を紹介を聞くときは、短冊の表に書かれたことばだけでなく、裏に書かれていることもよく聞き、自分の考えとの共通点や相違点に気をつけるよう言葉かけをした。そのため、自分と同じことばを選んでいる友達を紹介であっても、児童は最後まで集中して聞いていた。



## ④ 第3次 各自が選んだ伝記を読む (3時間)

第3次では、選んだ人物の伝記を読み、心に残ったことばを短冊に書き、皆に紹介した。

児童は第2次での学習をモデルとし、第3次の学習を進めて行った。第3次では、第1次で選んだ人物が同じだった友達とグループになり、グループで学習を進めて行けるようにした。目的意識を共有でき、児童の間に学び合いが生じると考えたからである。

1時間目は、選んだ人物の伝記を読み、漢字の読みや言葉の意味を確認した。その後、「百年後のふるさとを守る」での学習を生かして、人物の言動や考えには赤線を、筆者の考えには青線を引くよう指示した。グループ内で教え合う姿も見られた。

2時間目は、伝記を読んでの感想を書いた。その際、書き出しを示した手引きを与えた。(【資料6】参照) 児童は手引きを参考に感想を書き、グループ内で伝え合った。

3時間目は、伝記を読んで心に残ったことばを短冊に書き、紹介した。第2次のときと同じように手引きを与え、短冊に書くことの視点を与えた。(【資料7】参照) 短冊の裏には、「私もマザー・テレサさんのようにやさしく人々の命を助けたいです。」や、「ガリレオさんは私と比べてちがうと思う。それは、だれに何を言われても自分が思っていることをあきらめないところです。」というような人物から感銘を受けたことや、自分の生き方と伝記に描かれた人物の生き方を比較しての感想などが書かれていた。友達の紹介を聞き、ノートに感想を書いた。友達の紹介を聞いてどのようなことをした人物なのかがわかった、その人物の伝記を読んでみたいといったことが書かれていた。

## 【資料6 書き出しの手引】

心にこる、このことば

自分でえらんだ伝記を読み、感想を書こう

名貴

① マザー・テレサさんの行動や考え、ことばに赤線を引きましょう。  
筆者の手書きの考えには青線を引きましょう。

② 感想を書きましょう。次のようなことを書いてみてはどうでしょう。

マザー・テレサさんの言動や考え、心に残ったことばは……だ、なぜかというと……だからだ  
マザー・テレサさんの行動ですばらしいと思っ……だ、なぜかというと……だからだ  
マザー・テレサさんの生き方を知らず、私も……したいと思う。そのために……  
マザー・テレサさんのことばは……だ、そのために……  
マザー・テレサさんのことばは……だ、そのために……  
マザー・テレサさんのことばは……だ、そのために……

マザー・テレサさんの行動ですばらしい  
と、思ったことは見知らぬ貧しいおばあ  
さんや、病院へつれて行ってあげるといっ  
たら、だ、なぜかというふうに通って  
いて、貧しい人が死にかけているのを助  
けし、さつにつれて、その人はなかなかな  
かたがた、わたしは、死にかけの人を見て  
こわくて、その場からにげさて、いた  
思いますが、その人が休めるよう  
に、市役所の窓口まで相談して休ま  
せるというところが、かえり……

【資料7 短冊に書くための手引②】

表

※ 続きには、次のようにことを書いてみてはどうでしょう。

「これまでは……のような考えであったが、マザー・テレサさんの伝記を読んで……のように考えが変わった。(深まった)。  
マザー・テレサさんと比べて、私は……だ。  
自分もマザー・テレサさんのように……した。」

「あなたには、もともと生きてほしい。  
あなたもこのように望まなくて生まれ  
きた、たいせつな人なので、よーし」

心にとりか、このことば  
名前)

自分がえらんだ伝記を読んて、心にとりかたことばを短冊に書いて紹介しよう  
短冊の表には、心にとりかたことばを書きましよう。裏には、簡単なマザー・テレサさんの紹介と、自分の考えなどを書きましよう。

4. 成果と課題

【成果】

- 伝記を読み、友達と交流することを通して、自分の生き方を見つめ直し、考えを広げ深めることができた。
- 進んで伝記を読む児童が増えてきた。友達の伝記の紹介を聞き、紹介された伝記を読書タイムや休み時間に読んでいる児童の姿をよく見かけるようになった。また、徳島県立図書館の本の貸出記録を見ると、多くの児童が伝記を借りている。これは、学習を通して偉人のすばらしい生き方に触れたり、自分の生き方を見つめ直したりできる伝記のよさに児童が気付けたからであろう。

【課題】

- 毎時間手引き等で、児童がことばに着目できるようにはしたが、短冊に書かせることはしなかった。毎時間短冊にことばを書き留め、そのことばについて友達と交流したならば、「伝記を読んで心に残ったことばを短冊に書き留め、友達に紹介する」という活動目標を児童が常に意識しながら学習に取り組めただろう。
- 友達の紹介を聞き、感想を述べ合う姿は見られたが、質問をする姿はあまり見られなかった。「質問の手引き」についても用意することで、どのような質問をしたらよいかが明確

になり、交流がより充実したものになったのではないかと思う。交流の充実が、自分の考えのさらなる広がり、深まりにつながると考える。

## 5. おわりに

これまで自己中心的な言動が目立った児童が、この単元を通して自分の生き方を見つめ、「人のことも考えたい」と短冊に書いていた。その児童以外にも伝記に描かれた人物の生き方に感銘を受けた者が何名もいる。今後の生活の中で、行動に結びつけていってほしい。

冒頭でも述べたが、「ことば」には、力がある。困難に直面したとき、一つの「ことば」がその困難を乗り越える力となるときがある。また身体に染みついたことばが、知らず知らずのうちに力となっていることもあるだろう。伝記には、先の時代を力強く生きた偉人のことばが詰まっている。それらのことばは、児童が心豊かに、また力強く生きていく糧になるだろう。今後も進んで伝記を読み、心に残ったことばを短冊に書き留めていってほしい。そして、悩んだとき苦しいときには短冊を見返すことで、その困難を乗り越える力としてほしい。

## 注

- (1) 世羅博昭「“生きて働く国語の力”を育てるために」(『6年間の国語能力表を生かした国語科の授業づくり』日本標準、平成16年、p.18)

(よしおか たくや・上板町東光小学校)